

まずは、二十歳の成人式

(どこかで見た目だなあ。似ているけど、違うかなあ。あれから十年以上経ったから、これぐらいの青年になっているはずだよなあ。)

昨日、車の点検のために、ディーラー(自動車販売店)に足を運びました。駐車場に着くと、一人の若い営業マンが私の車に近づいてきて、丁寧に應對してくれました。互いにマスクをしていますが、確信がもてませんでした。彼の目を見るなり、どこかであったことがあると気づきました。

首に下がっている名札を見て、すぐに記憶が蘇りました。今から十一年前、旧瑞陵中で主幹教諭だった私が、当時の校長から急ぎよ担任交代を命じられて受け持った一年の学級にいたT君でした。丸刈りのかわいらしい元気な男の子でしたが、当時の女性の担任をてこずらせていました。

私が担任になってからは、ずいぶん大人になりました。一つのこととに強くこだわって徹底してやらせる私に、観念したのかもしれない。元気さは相変わらずでしたが、少しずつその元気がよい方向に向かっていきました。

彼らが中二になる時に、私は他の中学校に異動しましたので、その後の彼については知る由もありません。彼については、十一年前のままで私の記憶に残っていました。

「T君だよね。久しぶり！立派になったね。ここに配属されたの？ちゃんと言乗ってくれよ。」

「はい、ここに来て二年になります。申し訳ありません。私もそうかなと思いましたが、お客様に失礼があるといけないと思ひまして。」

十二年ぶりに会った彼は、中学時代とは違っていました。丁寧な言葉遣いや、客を大切に作る接待ができる素敵な青年になっていました。また、仕事とは言え、ネクタイを締め、折り目の付いたスラックスをはいた姿からは、清潔感が漂っていました。

教師の喜びは、こういうところにもあるものです。中学時代に自分と関わった生徒が、長い時間の隔たりの中でたくましく成長し、立派な大人として再び自分の前に姿を見せてくれた時の感動は、教師を経験した者ならではのもです。私の記憶の中に中学生の時の面影は残っていても、そのころのイメージが激しく打ち砕かれることに、教師は大きな喜びを感じます。

あと二日で卒業式を迎えます。今年度は一〇五名の卒業生が巣立ちます。別れには寂しさや辛さがつきものですが、五年後、十年後、そして、二十年後の卒業生の姿を想像すると、楽しみになってきます。再会した時には、ぜひ声をかけてくださいね。

水野市長は市議会で、成人式の時の瑞浪市の若者の姿や振る舞いを大変うれしく思っているという旨の話をされたと耳にしました。

まずは、五年後の二十歳の成人式ですね。立派に成長した北中卒業生の姿が見られることを期待しています。

(三月七日記)